

通信

あむーる



編集：八幡 成人（やわたしげと）

「チームハちゃん」ホームページ：<https://teamhacchan.wordpress.com/>

5月号

★一昨年北高補習科で英語を教えた北山あいさんに、大阪大学・人間科学部を詳しくレポートしてもらいました。彼女は英語が得意で、私は二次試験に自信を持って送り出しました。ここで、彼女は「自己採点」の大切さに触れています。私もこのことを口を酸っぱくして強調していますが、成績の低い人ほど自己採点がいい加減という実態があります。「負けに不思議の負けなし」ということです。◆◆◆

特集

大阪大学・人間科学部



2回生 北山あい

こんにちは、北山あいといいます。松江北高校の補習科でお世話になったあと、2022年に大阪大学人間科学部に進学しました。受験を終えて早一年が経過しましたが、当時を振り返りつつ、また大学生になって感じたことなど書こうと思います。読んでくださる方にとっての一助になると嬉しいです。

実は、私は現役時代から補習科の夏くらいまで、受験に関して自分のことをあまり「信用」できませんでした。こんな私のように、何だか今ひとつ自信を持ってない人に向けて書きます。ちなみに、学力については、予習をして授業に臨み復習する、そして模試直しをするということができれば力はついてくると思います。私が言うのはそれ以外のところです。

2回の大学受験を通して、私が大切

だと思うのはズバリ、「ブレをできるだけ減らす」ことです。補習科生は現役生と比べて手堅く進むイメージがあります。できることをきっちりこなし、ジワジワとできることを増やして合格をつかむイメージです。それはいろんな面でブレが少ないことと同義だと思います。

一例として、「自己採点」を挙げて説明したいと思います。自己採点については、先生方から現役の時以上にご指導いただいていると思いますが、やはり大切だと思いました。想像してみてください。「共通テスト」を受け終わって2次の対策期間中、「あれ...私、本当は自己採点ミスしてるかもしれない。そうだったら2次いけるのかな...後期も志望校変えたほうがよかったのかな...不安だ...」と思う瞬間が来ると思います。自分の自己採点の精度に自信が持てるか持てないかで、その後のパフォーマンスが全然違ってくると思います。みなさんご存じのとおり、自己採点

試験中は

- ①自分が正解だと思った数字を問題用紙にチェックする
- ②同じ数字をマークシートに塗る

試験後は

- ③問題用紙を見て選択した番号を自己採点シートに書き写す
- ④答えと解答があっているか確認して丸を付ける
- ⑤全ての科目の丸付けが終わったら小問ごとに点数を出し、合計点

を出す

これだけの工程を正確にできることは、大きな自信に繋がっていくのではないかと思います。

私はうっかり屋で雑な部分があり、初めは自己採点しても±0がなかなか出ず、2桁違うことも何回かありました。不器用な私に対して、「時間をかけていいから丁寧に自己採点をやりなさい」と言ってくださった当時の補習科の担任の先生方には感謝しています。秋～冬くらいには自己採点の精度が高まってきたので、本番では結果をずっと受け入れることができ、自信をもって2次対策に臨めました。ふたを開けてみると±0でとてもうれしかったのを覚えています。このようなところで一つ一つきちんと詰めていくことの先に、手堅い合格があるんじゃないかなと思います。

勉強習慣や生活習慣などの他の場面においてもブレを少なくしていけると、自信をもって本番を迎えられると思います。当たり前のことですが、自分に自信がないと受験でもなんでも乗り越えるのは難しいので、天性の自己肯定感高めな人じゃない限り、こつこつとやることをやる精神で進むといいのではないのでしょうか。ただ、私はブレのある人とか偏りのある人って面白いなって思うので受験をひとたび外れたら、そういうところも大切にしてほしいなって思います。

メッセージ

受験編が長くなってしまったのですが、次は大学について紹介します。私が通っている大阪大学人間科学部(以下人科)の学生のスタンスは簡単に言うと「自分でやりたいことやるから、ほっといてくれへん？」です。ただし、やみくもに進んでもその境地には到達できないので、教養課程(1～2回生)の現在は、だだっ広い人科の研究射程範囲を学んで基礎固めを行っています。

しかしながら、私は人科に入って学んでみて、たまにですが、すごく不安になることがあります。例えば、法学部みたいに確固とした思考のよりどころ(法律など)がなくて、なんでもありじゃないけど議論に一定の正解がないところや、他の学部と比べて自分が何かを学んでいるという実感が得づらいところ、人科の実態がつかめない(実際に1回生の必修授業では「人間科学とはなにか」という問いを投げかけられます)ので、なんだか落ち着かないところがその理由です。自由の不安定さを実感します(笑)。

一方で、格好つけて言うと、何かに縛られて安心していたいとかサラサラ思わない、または型にはまった学問と比べて自由に大胆に研究できるのが魅力的だと思える人であれば、人科が向いているのではないかと思います。

なお、人科は、「社会学(教育学、心理学しかり)(だけ)がしくて来ました！」という人にとっては一癖感じる学部かもしれません。なぜなら人科には各専門分野の知を融合させるという理念が基底にあるからです。一応2回生以降は「社会学系」「教育学系」「行動学系(心理学系)」「共生学系」の4つの専門系というものに分かれませんが、人科はあくまで各専門系をタコつぼ型(独立するかたち)で存在させよう

とは思っていないようです。ただ、この試みは難しいことに思えます。具体的にどうすることなのか、まだ私には分からないので、この先納得のいく人科理解や研究ができればと思います。「人科は知のプラットフォーム」というのが今の私の答えです。

あと、大学生活一般でいうと、とにかく「人との出会い」が自分の世界を広げてくれると実感した一年でした。自分で何かの場に踏み出すとまったく知らなかったことに出会えました。特に大学の中にはいろんな人がいるので、出し惜しみなくいけたら面白いことがたくさん待っていると思います。それでも私はなんとなくで1回生を乗り切った感じがして、すこし物足りないというか、ピンと気が引き締まるようなことがしたいな～！という今日この頃です。だからこの春休みを含めて2回生ではいろいろなチャレンジをしていきたいなと思っています。

長々と書いてしまいましたが、あくまで自分のペースでお互い頑張りましょう！納得のいく受験生活となるように祈っています。



これが必須！！

自己採点

●「自己採点」のことについて触れておきます。非常に杜撰です。私の教えている浪人生でもひどい実態があります。現役生はなおさらです。予備校等のデータによれば全国で8割以上の受験生が間違えています。「横断歩道、みんなで渡れば怖くない」という実情になっているのです。かつて「自己採点」が103点も間違っていて、ある公立大学に合格した生徒がいました。北高の数学の先生に計算してもらったことがあります。英語の平均点付近で2点違っただけで9,504番差が付きます。6点違うと、28,621番も差が付くんです。この実態を周知徹底して模試の際の「自己採点」に臨みましょう。♥♥♥

要確認



①問題を解く際に、自分の解答をきちんと問題用紙に転写していない。問題番号をずらしてしまう。不鮮明でどれにマークしたのかが読めない。消しゴムできちんと消していない。その結果、自己採点当日に自分の答案が再現できなくなる。⇒細心の注意を払って

②問題用紙の解答を「自己採点用紙」に転記する際に写し間違える。もう1回点検することで防げるミス。⇒2回必ず点検する

③正解と自分の解答を照合して配点を○×で囲む。その際にうっかり○×を間違える。もう1回点検することで防げるミス。⇒2回必ず点検する

④○の得点を小計、合計する際に手計算や暗算でやって間違える。電卓を使って、2回計算することで正確に合計できる。自己採点当日、電卓を忘れ手計算でいい加減にやっている生徒も目につく。⇒必ず電卓を使うこと

⑤解答用紙にマークする際に、決められたようにマークしていないので(形、濃さ、消し忘れ)機械が読み取れない。⇒本番では細心の注意を払って